



Cisco Network Assistant による Catalyst 4500 シリーズ スイッチの設定

この章では、ワークステーション上に Network Assistant をインストールして、Catalyst 4500（または Catalyst 4900）シリーズ スイッチが Network Assistant と通信するように設定する方法について説明します（これまでの *Catalyst 4500* シリーズ スイッチという用語は、両方のスイッチ タイプを意味するように使用されています）。また、コミュニティおよびクラスタの作成方法についても説明します。Network Assistant は 2 つのテクノロジーを使用して、Catalyst 4500 シリーズ スイッチなどのネットワーク デバイスのグループを管理します。

Network Assistant は、無料のネットワーク管理ツールで、GUI による Catalyst 4500 シリーズ スイッチの設定および管理を可能にします。Network Assistant は、セキュア環境および非セキュア環境の両方で稼動します。Network Assistant は、ご使用のイントラネットのどこからでもスタンドアロン デバイス、デバイス グループ、またはスイッチ グループ（コミュニティまたはクラスタ内）を管理します。Network Assistant を使用すると、コマンドを覚える必要がなく、複数の設定作業を実行できます。



(注)

この章のスイッチ コマンドの構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』および次の URL の関連マニュアルを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/prod_installation_guides_list.html

Network Assistant の設定および使用法

この章の内容は、次のとおりです。

- 「Network Assistant の関連機能およびデフォルト設定」 (P.13-2)
- 「CLI コマンドの概要」 (P.13-2)
- 「スイッチでの Network Assistant の設定」 (P.13-3)
- 「コミュニティを使用したネットワーク管理」 (P.13-5)
- 「クラスタのコミュニティへの変換」 (P.13-9)
- 「クラスタを使用したネットワーク管理」 (P.13-10)
- 「コミュニティ モードまたはクラスタ モードでの Network Assistant の設定」 (P.13-13)



(注) Network Assistant は Cisco.com 上のオンライン ソフトウェア イメージとバンドルされていません。Network Assistant は次の URL からダウンロードできます。
<http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/index.html>



(注) Network Assistant のソフトウェアおよびハードウェア要件、インストール方法、起動方法、およびデバイスへの接続方法の詳細については、次の URL の『*Getting Started with Cisco Network Assistant*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/prod_installation_guides_list.html

Network Assistant の関連機能およびデフォルト設定

表 13-1 に、Catalyst 4500 シリーズ スイッチの Network Assistant 関連の設定パラメータを示します。

表 13-1 Catalyst 4500 シリーズ スイッチの Network Assistant 関連の設定

機能	デフォルト値	推奨値
認証	ディセーブル	任意
IP アドレス	コミュニティまたは検出オプションにより異なります。 ¹	ユーザ選択可能 (注) コミュニティは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。
IP HTTP ポート番号	80	任意 ²
IP HTTPS ポート番号	443	任意 ³
IP HTTP サーバ	ディセーブル	イネーブル ⁴
Cluster run	ディセーブル	イネーブル ⁵

1. コミュニティのデバイス検出およびクラスタ コマンドには、スイッチごとに IP アドレスを設定する必要があります。
2. Network Assistant のポート番号と Catalyst 4500 シリーズ スイッチのポート番号は一致させる必要があります。
3. デバイスのクラスタのこの値のみ、変更できます。Network Assistant のポート番号と Catalyst 4500 シリーズ スイッチのポート番号は一致させる必要があります。値は、1024 より上の任意の非デフォルト番号に変更できます。
4. Network Assistant がデバイスにアクセスするのに必要です。
5. デバイスのクラスタを管理する場合にのみ、イネーブルです。

CLI コマンドの概要

表 13-2 に、Network Assistant 関連の Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) コマンドの概要を示します。

表 13-2 CLI コマンド

コマンド	機能
[no] <code>cluster enable</code>	クラスタに名前を付けます。
[no] <code>cluster run</code>	クラスタリングをイネーブルにします。 (注) このコマンドは、クラスタリング専用です。
[no] <code>ip http server</code>	スイッチで HTTP を設定します。
[no] <code>ip http port port_number</code>	HTTP ポートを設定します。
[no] <code>ip domain-name domain_name</code>	スイッチ上でドメインを設定します。
[no] <code>ip http secure-server</code>	スイッチ上で HTTPS を設定して、イネーブルにします。
[no] <code>ip http secure-port port_number</code>	HTTPS ポートを設定します。
[no] <code>ip http max-connections connection_number</code>	HTTP サーバへの最大同時接続数を設定します。
[no] <code>ip http timeout-policy idle idle_time life life_time requests requests</code>	HTTPS ポートを設定します。 180 秒の idle 値を推奨します。 180 秒の life 値を推奨します。 許可できる requests の最大数は 25 を推奨します。
<code>line vty</code>	CNA が使用する追加の VTY を設定します。
<code>show version</code>	Cisco IOS リリースを表示します。
<code>show running-config</code>	スイッチ設定を表示します。
<code>vtp domain</code>	VLAN を管理する VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) ドメインを作成します。
<code>vtp mode</code>	VLAN の VTP 管理に関する動作を設定します。

スイッチでの Network Assistant の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「CNA から Catalyst 4500 へアクセスするのに必要な最小設定」 (P.13-3)
- 「コミュニティを使用する必要がある場合の追加設定」 (P.13-4)
- 「クラスタを使用する必要がある場合の追加設定」 (P.13-5)

CNA から Catalyst 4500 へアクセスするのに必要な最小設定

デフォルトの設定を使用する場合は、Catalyst 4500 シリーズ スイッチにアクセスして、`ip http server` (HTTP 用) または `ip http secure-server` (HTTPS 用) グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Switch(config)# <code>ip http server</code> or Switch(config)# <code>ip domain-name domain_name</code>	(HTTP の場合のみ) スイッチ上で HTTP サーバをイネーブルにします。デフォルトでは、HTTP サーバはディセーブルに設定されています。 スイッチでドメイン名をイネーブルにして、HTTPS を設定します。
ステップ 3	Switch(config)# <code>ip http secure-server</code>	スイッチ上で HTTPS サーバをイネーブルにします。デフォルトでは、HTTPS サーバはディセーブルに設定されています。
ステップ 4	Switch(config)# <code>ip http max-connections connection_number</code>	HTTP サーバへの最大同時接続数を設定します。 16 の <code>connection_number</code> を推奨します。
ステップ 5	Switch(config)# <code>ip http timeout-policy idle idle_time life life_time requests requests</code>	HTTPS ポートを設定します。 idle キーワードでは、接続がアイドル状態にいる最大時間数を指定します。180 秒の idle 値を推奨します。 life キーワードでは、接続が確立してからオープンしている最大時間数を指定します。180 秒の life 値を推奨します。 requests キーワードでは、接続での最大要求数を指定します。許可できる requests の最大数は 25 を推奨します。
ステップ 6	Switch(config-if)# <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	Switch# <code>show running-config</code>	設定を確認します。



(注) クラスタリングがイネーブルの場合、コミュニティを設定する前にクラスタリングをディセーブルにします (表 13-2 を参照)。

コミュニティを使用する必要がある場合の追加設定



(注) コミュニティは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。



コミュニティを使用する場合は、スイッチごとに IP アドレスを定義します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# <code>configuration terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Switch(config)# <code>interface {vlan vlan_ID {fastethernet gigabitethernet} slot/interface Port-channel number}</code>	インターフェイスを選択します。

	コマンド	目的
ステップ 3	Switch(config-if)# ip address ip_address address_mask	(任意) Catalyst 4500 シリーズに IP アドレスを割り当てます。 (注) スイッチがコミュニティの一部またはクラスタ コマンドスイッチの場合、この手順は必須です。スイッチがクラスタ メンバ候補の場合、この手順は任意です。
ステップ 4	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	Switch# show running-config	設定を確認します。

クラスタを使用する必要がある場合の追加設定

クラスタリングを使用する場合、デバイスごとに **cluster run** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力し、クラスタ コマンドで **ip address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# configuration terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Switch(config)# cluster run	クラスタリングをイネーブルにします。  (注) クラスタの一部となる可能性のあるスイッチすべてでクラスタリングをイネーブルにします。
ステップ 3	Switch(config)# cluster enable	クラスタに名前を付けます。
ステップ 4	Switch(config)# interface {vlan vlan_ID {fastethernet gigabitethernet} slot/interface Port-channel number}	インターフェイスを選択します。
ステップ 5	Switch(config-if)# ip address ip_address address_mask	(任意) Catalyst 4500 シリーズ スイッチのクラスタ マスターに IP アドレスを割り当てます。  (注) スイッチがコミュニティの一部またはクラスタ コマンドスイッチの場合、この手順は必須です。スイッチがクラスタ メンバ候補の場合、この手順は任意です。
ステップ 6	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	Switch# show running-config	設定を確認します。

コミュニティを使用したネットワーク管理



(注) コミュニティは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

ここでは、Network Assistant アプリケーションによるデバイス（Catalyst 4500 シリーズ スイッチ、ルータ、アクセス ポイント、および PIX ファイアウォールを含む）管理におけるコミュニティの使用方法について説明します。

コミュニティを使用してネットワーク内のスイッチを分類する場合、唯一の要件は HTTP サーバおよびスイッチごとの IP アドレスの設定です。

コミュニティ内のデバイスの総数は、20 以下になるようにします（最大 4 つの Catalyst 4500 シリーズ スイッチ（モジュラ式）、16 の Catalyst 2900/3500 または Catalyst 4948/4948-10GE スイッチ（非モジュラ式）、2 つのルータ、および 2 つの PIX ファイアウォールも含む）。



(注) アクセス ポイントはデバイス制限から除外されました。現在、CNA が管理できるアクセス ポイント数に制限はありません。



(注) **Add to Community** ダイアログにより、多数のデバイスが表示されますが、20 のデバイスしか選択できません。21 番目のデバイスを追加しようとする、ダイアログは 21 番目のデバイスを表示して、不要なデバイスの選択が要求されます。



(注) Network Assistant を使用してスイッチ コミュニティを設定する詳細な手順については、次の URL の『*Getting Started with Cisco Network Assistant*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/prod_installation_guides_list.html

ここでは、コミュニティを作成する前に理解する必要がある注意事項、要件について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- 「候補およびメンバの特性」 (P.13-6)
- 「候補およびメンバの自動検出」 (P.13-7)
- 「コミュニティ名」 (P.13-7)
- 「ホスト名」 (P.13-8)
- 「パスワード」 (P.13-8)
- 「Network Assistant のアクセス モード」 (P.13-8)
- 「コミュニティ情報」 (P.13-8)

候補およびメンバの特性

候補は、IP アドレスを持ちますが、コミュニティには追加されていないネットワーク デバイスです。メンバは、現在コミュニティに含まれるネットワーク デバイスです。

コミュニティに加入するには、候補は次の要件を満たす必要があります。

- IP アドレスが指定されていること。
- デバイスを自動検出する場合、Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) バージョン 2 がイネーブルに設定されていること（デフォルト）。
- HTTP（または HTTPS）がイネーブルであること。



(注) クラスタ メンバはコミュニティに追加できますが、逆はできません。



(注) クラスタ コマンドがコミュニティに追加されても、クラスタのその他のメンバ デバイスは自動的に追加されません。クラスタ メンバを管理するには、個別にコミュニティに追加する必要があります。

候補およびメンバの自動検出

Network Assistant は、CDP を使用してネットワーク内の利用可能なデバイスのすべてを確認または検出し、コミュニティを形成します。起動デバイスの IP アドレスおよび HTTP (または HTTPS) プロトコルのポート番号から始めて、Network Assistant は CDP を使用して起動デバイスに隣接するコミュニティ候補のリストをコンパイルします。Network Assistant は、有効な IP アドレスを持つ限り、複数のネットワークおよび VLAN 間で候補デバイスおよびメンバ デバイスを検出できます。



(注) デフォルトでは、コミュニティ モードの Network Assistant は最大 4 ホップ先まで検出します。

ネットワーク デバイスが検出されるための要件のリストについては、「[候補およびメンバの特性 \(P.13-6\)](#)」を参照してください。



(注) Network Assistant により検出する場合は、候補、メンバ、またはネットワーク デバイスで CDP をディセーブルにしないでください。



(注) PIX ファイアウォールは CDP をサポートしないため、Topology ビューにネイバーとして自動表示されません。Create Community ウィンドウまたは Modify Community ウィンドウを使用してコミュニティに追加した場合にのみ表示されます。PIX ファイアウォールと他のコミュニティ メンバとのリンクを確認するには、Topology ポップアップメニューで ADD Link を選択して手動でリンクを追加する必要があります。

検出されたデバイスのリストを編集し、必要に応じてコミュニティに追加できます。デバイスがコミュニティに追加されるたびに、そのネイバーが検出され、候補デバイスのリストに追加されます。Network Assistant がデバイスを検出できない場合は、IP 管理アドレスにより手動で追加できます。

コミュニティ名

メンバ デバイスのリストにコミュニティの設定情報を適用すると、Network Assistant によりコミュニティの名前 (または IP アドレス) の入力が要求されます。コミュニティを管理するには、まず名前を割り当てる必要があります。Network Assistant は、この名前をご使用の PC に保存します。

コミュニティ名には、0 ~ 9、a ~ z、および A ~ Z の文字と、文字間のスペースを使用できます。



(注) クラスタには、IP アドレスによってのみ接続できます。名前を選択すると、常にそのコミュニティの名前となります。

ホスト名

起動デバイスまたはコミュニティ メンバには、ホスト名を割り当てる必要はありません。ただし、シスコではホスト名の割り当てを推奨しています。Network Assistant は、デフォルトでは割り当てません。検出されたデバイスにホスト名がある場合、Network Assistant はこのデバイスの情報を識別するために、IP アドレス、通信プロトコル、および指定されたプロトコル ポートとともにホスト名をご使用の PC に保存します。

パスワード

コミュニティ メンバとなるデバイスにはパスワードを割り当てる必要はありませんが、シスコではパスワードの割り当てを推奨しています。

コミュニティ メンバごとに別々のパスワードを割り当てることができます。

通信プロトコル

Network Assistant は、HTTP（または HTTPS）プロトコルを使用してネットワーク デバイスと通信します。候補デバイスの検出に CDP を使用すると、HTTP（または HTTPS）と通信しようとします。

Network Assistant のアクセス モード

Network Assistant がコミュニティまたはクラスタに接続されている場合、パスワードにより読み書きモードおよび読み出し専用モードの 2 つのアクセス モードが使用できます。

コミュニティ情報

Network Assistant は、すべてのコミュニティの設定情報および個別のデバイス情報（IP アドレス、ホスト名、通信プロトコルなど）をご使用のローカル PC に保存します。Network Assistant がコミュニティに接続するとき、ローカルに保存されたデータを使用してメンバ デバイスを再検出します。

別の PC を使用して既存のコミュニティを管理しようとする、メンバ デバイスの情報は使用できません。再度コミュニティを作成し、これと同じメンバ デバイスを追加する必要があります。

デバイスの追加

コミュニティにメンバを追加するには、次の 3 つの方法があります。

1 つめの方法では、Network Assistant 上の Devices Found ウィンドウを使用して、検出したデバイスを新しいコミュニティに追加します。

- a. Devices Found ウィンドウで、追加する候補デバイスを選択します。

複数の候補デバイスを追加するには、**Ctrl** を押して選択をするか、**Shift** を押して範囲の最初と最後のデバイスを選択します。

- b. **Add** をクリックします。

2 つめの方法では、Modify Community ウィンドウを使用して、既存のコミュニティにデバイスを追加します。

- a. **Application > Communities** を選択し、Community ウィンドウを開きます。

- b. Community ウィンドウで、デバイスを追加するコミュニティ名を選択し、**Modify** をクリックします。

- c. 手動で単一のデバイスを追加するには、**Modify Community** ウィンドウで所定のデバイスの IP アドレスを入力し、**Add** をクリックします。
- d. 候補デバイスを検出するには、起動デバイスの IP アドレスを入力し、**Discover** をクリックします。
- e. リストから候補デバイスを選択し、**Add** をクリックしてから、**OK** をクリックします。
複数の候補デバイスを追加するには、**Ctrl** を押して選択をするか、**Shift** を押して範囲の最初と最後のデバイスを選択します。

デバイスを追加する 3 つめの方法では、**Topology** ビューを使用します。

- a. **Topology** ビューが表示されない場合は、機能バーから **View window> Topology** を選択します。
- b. 候補アイコンを右クリックして、**Add to Community** を選択します。

候補はシアン、メンバはグリーンになります。複数の候補を追加するには、**Ctrl** を押して、追加する候補を左クリックします。

コミュニティに 20 のメンバが所属している場合、そのコミュニティでは **Add to Community** オプションは使用できません。この場合、新しいメンバを追加する前に 1 つのメンバを削除する必要があります。



(注)

コミュニティにログインしていて、他の CNA インスタンスからそのコミュニティを削除する場合、このコミュニティセッションを終了しない限り、セッションを介してすべての設定を実行できます。セッションの終了（つまり、コミュニティの削除）後は、このコミュニティに接続できなくなります。

クラスタのコミュニティへの変換



(注)

コミュニティは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

Cluster Conversion ウィザードにより、クラスタをコミュニティに変換できます。変換が完了するとただちに、デバイス グループをコミュニティとして管理できます。コミュニティ管理の利点は、コミュニティ内のデバイスとの通信がクラスタ内のデバイスとの通信よりもセキュアである（複数のパスワードおよび HTTPS を介するため）ことです。さらに、デバイスのアベイラビリティは高く、メンバにできるデバイスの範囲も広がります。



(注)

Cluster Conversion ウィザードでは、クラスタ定義は変更されません。そのため、デバイスをクラスタとしても管理できます。

Cluster Conversion ウィザードを開始するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** **Network Assistant** を開始し、コマンドの IP アドレスを介して既存のクラスタに接続します。
- ステップ 2** 機能バーで、**Configure > Cluster > Cluster Conversion Wizard** をクリックします。
「Do you want to convert this cluster to a community?」（このクラスタをコミュニティに変換しますか）という質問が表示されます。
- ステップ 3** **Yes** を選択して次に進むか、**Cluster Conversion** ウィザードを手動で立ち上げる場合は **No** を選択します。

Yes を選択すると、初期画面が表示され、クラスタ、コミュニティ、およびその利点に関する情報が提供されます。

次に、クラスタ内のデバイスを示す表が IP アドレスおよびサブネット マスクを持たないデバイスから表示されます。コミュニティのメンバとなるには、クラスタ内のすべてのデバイスで IP アドレスおよびサブネット マスクを持つ必要があることに注意してください。



(注) デバイスに IP アドレスおよびサブネット マスクを持つインターフェイスが複数ある場合は、セルをクリックすると複数のインターフェイスが表示されます。最初に表示されたものとは異なるインターフェイスを選択できます。

ステップ 4 IP Address カラムでは、IP アドレスを持たない各デバイスの IP アドレスを入力します。

ステップ 5 Subnet Mask カラムでは、サブネット マスクを持たない各デバイスのセルをクリックし、サブネット マスクを選択します。

ステップ 6 コミュニティ名を入力します。

ステップ 7 変換を開始するには、**Finish** をクリックします。

変換が完了すると、Network Assistant が再開し、新しく作成されたコミュニティに自動的に接続します。



(注) クラスタリングがイネーブルの場合、コミュニティを設定する前にクラスタリングをディセーブルにする必要があります (表 13-2 を参照)。

クラスタを使用したネットワーク管理

ここでは、クラスタリングを使用して、スタンドアロンの Network Assistant アプリケーションまたは CLI を使用する Catalyst 4500 シリーズ スイッチの作成および管理方法について説明します。

ネットワーク内のスイッチを分類するには、クラスタリングを使用できます。管理されるスイッチごとにクラスタ実行コマンドを入力する必要があります。主な利点は、1 つの IP アドレスで 16 のデバイスを管理できることです。



(注) クラスタリングは、CNA 1.0 で使用される自動検出メカニズムです。



(注) Network Assistant を使用してスイッチ クラスタを設定する詳細な手順については、次の URL の『Getting Started with Cisco Network Assistant』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/prod_installation_guides_list.html

ここでは、次の内容について説明します。

- 「スイッチ クラスタの概要」 (P.13-11)
- 「CLI を使用したスイッチ クラスタ管理」 (P.13-13)

スイッチ クラスタの概要

ここでは、次の内容について説明します。

- 「クラスタリングの概要」(P.13-11)
- 「クラスタ コマンド スイッチの特性」(P.13-11)
- 「候補スイッチとクラスタ メンバ スイッチの特性」(P.13-12)

クラスタリングの概要

スイッチ クラスタは、最大 16 個の接続されたクラスタ対応 Catalyst スイッチで、単一エンティティとして管理されます。1 つの IP アドレスを介して異なる Catalyst 4500 シリーズ スイッチ プラットフォーム グループを設定およびトラブルシューティングできるように、クラスタのスイッチはスイッチ クラスタリング技術を使用します。

スイッチ クラスタを使用すると、スイッチの物理的なロケーションやプラットフォーム ファミリに関係なく、複数のスイッチの管理を簡略にします。



(注) デフォルトでは、クラスタリング モードの Network Assistant は最大 7 ホップ先まで検出します。

スイッチ クラスタでは、1 つのスイッチはクラスタ コマンド スイッチになる必要があります。最大 15 個の残りのスイッチはクラスタ メンバ スイッチになります。クラスタのスイッチ総数は 16 個を超えることはできません。クラスタ コマンド スイッチは、クラスタ メンバ スイッチを設定、管理、モニタリングする単独のアクセス ポイントです。クラスタ メンバは、同時に 1 つのクラスタにのみ属することができます。



(注) 必ずクラスタ コマンド スイッチとして Catalyst 4500 または 4948 シリーズ スイッチを選択してください。

クラスタ コマンド スイッチの特性

クラスタ コマンド スイッチは次の要件を満たす必要があります。

- Cisco IOS Release 12.2(20)EWA 以降を使用していること。
- IP アドレスが指定されていること。
- CDP バージョン 2 がイネーブル (デフォルト) に設定されていること。
- クラスタ対応ソフトウェアを使用し、クラスタリングがイネーブルであること。
- IP HTTP (または HTTPS) サーバがイネーブルであること。



(注) Catalyst 4500 シリーズ スイッチでは、HTTP および HTTPS はデフォルトでイネーブルに設定されていません。

- 16 本の VTY 回線があること。



(注) Catalyst 4500 シリーズ スイッチのデフォルトは 4 回線です。スイッチでの値が 16 になるよう設定します。

- 別のクラスタのコマンドまたはクラスタ メンバ スイッチではないこと。



(注) ご使用のスイッチ クラスタに Catalyst 4500 シリーズスイッチが含まれている場合、クラスタ コマンドスイッチも Catalyst 4500 シリーズスイッチにする必要があります。

Network Assistant と VTY

Network Assistant は VTY 回線を使用して、クラスタ コマンド デバイスと通信します。Catalyst 4500 シリーズスイッチには、デフォルト設定で 5 本の VTY 回線が設定されています。Network Assistant では、その他に 8 本の回線を採用できます。このため、最大数の回線（または最低 $8 + 5 = 13$ ）を設定し、Network Assistant がスイッチとやり取りできるようにして、Telnet で必要となる可能性がある VTY 回線を使用しないでください。

line vty コンフィギュレーション コマンドを使用して、適切な VTY 回線数をサポートするよう Catalyst 4500 シリーズスイッチを設定できます。たとえば、VTY 回線を 9 本含めるようスイッチを設定するには、**line vty 6 15** コマンドを使用します。



(注) 既存の VTY 回線がデフォルト以外の設定の場合、この設定を新しい VTY 回線に適用する必要があります。

候補スイッチとクラスタ メンバスイッチの特性

候補スイッチとは、クラスタに含まれないクラスタ対応スイッチです。クラスタ メンバスイッチとは、現在スイッチ クラスタに含まれているスイッチです。候補スイッチまたはクラスタ メンバスイッチには独自の IP アドレスおよびパスワードがありますが、必須ではありません。



(注) 候補のホスト名では、[a-zA-Z0-9]-n 形式は禁止されています。n は 0 ~ 16 です。これらの名前は予約済みです。

クラスタに加入するには、候補スイッチは次の要件を満たす必要があります。

- クラスタ対応ソフトウェアを実行し、クラスタリングがイネーブルであること。
- CDP バージョン 2 がイネーブルであること。
- HTTP サーバがイネーブルであること。



(注) コマンド スイッチ上で HTTP がイネーブルの場合でも、コマンド スイッチとメンバ スイッチ間の通信は HTTP を通じて行われます。そのため、セキュアではありません。

- 16 本の VTY 回線があること。
- 別のクラスタのコマンドまたはクラスタ メンバ スイッチではないこと。
- 最低 1 つの共通 VLAN を介してクラスタ コマンド スイッチに接続していること。

Catalyst 4500 候補スイッチおよびクラスタ メンバ スイッチを設定する場合は、クラスタ コマンド スイッチとの VLAN 接続上の Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) を使用することを推奨します。

CLI を使用したスイッチ クラスタ管理

クラスタ コマンド スイッチに最初にログインすると、CLI からクラスタ メンバ スイッチを設定できません。Telnet セッションを（コンソールまたは Telnet 接続によって）開始し、クラスタ メンバ スイッチ CLI にアクセスするには、**rcommand** ユーザ EXEC コマンドを使用し、クラスタ メンバ スイッチ番号を入力します。コマンド モードは変更され、Cisco IOS コマンドは通常どおり動作します。コマンド スイッチ CLI に戻すには、クラスタ メンバ スイッチの **exit** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次に、コマンド スイッチ CLI からメンバ スイッチ 3 にログインする例を示します。

```
switch# rcommand 3
```

メンバ スイッチ番号がわからない場合、クラスタ コマンド スイッチの **show cluster members** 特権 EXEC コマンドを使用します。**rcommand** コマンドおよびその他すべてのクラスタ コマンドの詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』を参照してください。

Telnet セッションは、クラスタ コマンド スイッチと同じ特権レベルでメンバ スイッチ CLI にアクセスします。そのあと、Cisco IOS コマンドは通常どおり動作します。Telnet セッションのスイッチの設定方法については、「[Telnet を使用して CLI にアクセスする場合](#)」(P.2-2) を参照してください。



(注) CISCO-CLUSTER_MIB はサポートされません。

コミュニティ モードまたはクラスタ モードでの Network Assistant の設定



(注) コミュニティは Supervisor Engine 6-E ではサポートされていません。

ここでは、コミュニティまたはクラスタで稼動する Network Assistant の設定で使用される CLI の詳細を説明します。Network Assistant は、HTTP（または HTTPS）接続で Cisco IOS コマンドを送信することで、Catalyst 4500 シリーズ スイッチと通信します。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[コミュニティ モードのネットワーク スイッチ上での Network Assistant の設定](#)」(P.13-13)
- 「[クラスタ モードのネットワーク スイッチ上での Network Assistant の設定](#)」(P.13-17)

コミュニティ モードのネットワーク スイッチ上での Network Assistant の設定

コミュニティ モードのネットワーク スイッチ上で Network Assistant を設定するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Switch(config)# enable password name	コンフィギュレーション モードのパスワード保護をイネーブルにします。
ステップ 3	Switch(config)# vtp domain name	VLAN を管理するために、VTP ドメインを作成します。
ステップ 4	Switch(config)# vlan vlan_id	VLAN を作成します。

	コマンド	目的
ステップ 5	Switch(config-vlan)# interface {vlan vlan_ID {fastethernet gigabitethernet} slot/interface Port-channel number}	ご使用の CNA 対応 PC に接続するインターフェイスを選択します。
ステップ 6	Switch(config-if)# switchport access vlan vlan_id	指定の VLAN で選択されたインターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 7	Switch(config-if)# interface {vlan vlan_ID slot/interface Port-channel number}	設定用の VLAN インスタンスを選択します。
ステップ 8	Switch(config-if)# ip address ip_address	SVI に IP アドレスを割り当てます。
ステップ 9	Switch(config-if)# no shutdown	インターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 10	Switch(config-if)# ip http server	Network Assistant がスイッチと対話できるよう HTTP サーバを開始します。
ステップ 11	Switch(config)# ip domain-name domain_name	スイッチでドメイン名をイネーブルにして、HTTPS を設定します。
ステップ 12	Switch(config)# ip http secure-server	スイッチ上で HTTPS サーバをイネーブルにします。デフォルトでは、HTTPS サーバはディセーブルに設定されています。
ステップ 13	Switch(config)# ip http max-connections connection_number	HTTP サーバへの最大同時接続数を設定します。 16 の <i>connection_number</i> を推奨します。
ステップ 14	Switch(config)# ip http timeout-policy idle idle_time life life_time requests requests	HTTPS ポートを設定します。 idle キーワードでは、接続がアイドル状態である最大時間を指定します。180 秒の idle 値を推奨します。 life キーワードでは、接続が確立してからオープンである最大時間を指定します。180 秒の life 値を推奨します。 requests キーワードでは、接続の最大要求数を指定します。25 の requests 値を推奨します。
ステップ 15	Switch(config-if)# ip http secure-server	(任意) スイッチが Network Assistant からの HTTPS 接続を受け入れるようにします。
ステップ 16	Switch(config)# ip route a.b.c	デフォルト ルータとのルートを確立します。これは通常、ローカル インターネット プロバイダーにより供給されます。 (注) この回線だけが、スタンドアロン スイッチとネットワーク スイッチの設定の相違点です。
ステップ 17	Switch(config)# line con 0	コンソール ポートを選択して設定を実行します。
ステップ 18	Switch(config-line)# exec-timeout x y	端末にキーボード入力または出力が表示されない場合、自動セッション ログアウトを設定します。
ステップ 19	Switch(config-line)# password password	コンソール ポートのパスワードを指定します。
ステップ 20	Switch(config-line)# login	コンソール ポートへのログインを許可します。
ステップ 21	Switch(config-line)# line vty x y	CNA がスイッチにアクセスするための追加の VTY 回線を作成します。
ステップ 22	Switch(config-line)# password password	スイッチのパスワードを指定します。
ステップ 23	Switch(config-line)# login	スイッチへのログインを許可します。
ステップ 24	Switch(config-line)# line vty x y	CNA がスイッチにアクセスするための追加の VTY 回線を作成します。
ステップ 25	Switch(config-line)# password password	スイッチのパスワードを指定します。

	コマンド	目的
ステップ 26	Switch(config-line)# login	スイッチへのログインを許可します。
ステップ 27	Switch(config-line)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 28	Switch# show running-config	設定を確認します。

次に、コミュニティ モードのネットワーク スイッチ上で Network Assistant を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# vtp domain cnadoc
Changing VTP domain name from cisco to cnadoc
Switch(config)# vlan 2
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# interface GigabitEthernet 2/1
Switch(config-if)# switchport access vlan 2
Switch(config-if)# exit
Switch(config)# interface vlan 2
Switch(config-if)# ip address 123.123.123.1 255.255.255.0
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# exit
Switch(config)# ip http server
Switch(config)# ip domain-name cisco.com
Switch(config)# ip http secure-server
Switch(config)# ip http max-connections 16
Switch(config)# ip http timeout-policy idle 180 life 180 requests 25
Switch(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 123.123.123.2
Switch(config)# line con 0
Switch(config-line)# exec-timeout 0 0
Switch(config-line)# password keepout
Switch(config-line)# login
Switch(config-line)# line vty 5 15
Switch(config-line)# password keepout
Switch(config-line)# login
Switch(config-line)# line vty 5 15
Switch(config-line)# end
Switch# show running-config
Building configuration...

Current configuration : 1426 bytes
!
version 12.2
no service pad
service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
service compress-config
!
hostname Switch
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
enable password cna
!
no aaa new-model
ip subnet-zero
ip domain-name cisco.com
!
vtp domain cnadoc
vtp mode transparent
!
crypto pki trustpoint TP-self-signed-913087
```

```

enrollment selfsigned
subject-name cn=IOS-Self-Signed-Certificate-913087
revocation-check none
rsakeypair TP-self-signed-913087
!!
crypto pki certificate chain TP-self-signed-913087
certificate self-signed 01
 3082028E 308201F7 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 04050030
 52312B30 29060355 04031322 494F532D 53656C66 2D536967 6E65642D 43657274
 69666963 6174652D 39313330 38373123 30210609 2A864886 F70D0109 02161456
 61646572 2D343531 302E6369 73636F2E 636F6D30 1E170D30 36303432 30323332
 3435305A 170D3230 30313031 30303030 30305A30 52312B30 29060355 04031322
 494F532D 53656C66 2D536967 6E65642D 43657274 69666963 6174652D 39313330
 38373123 30210609 2A864886 F70D0109 02161456 61646572 2D343531 302E6369
 73636F2E 636F6D30 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D 00308189
 02818100 F2C86FEA 49C37856 D1FA7CB2 9AFF748C DD443295 F6EC900A E83CDA8E
 FF8F9367 0A1E7A20 C0D3919F 0BAC2113 5EE37525 94CF24CF 7B313C01 BF177A73
 494B1096 B4D24729 E087B39C E44ED9F3 FCCD04BB 4AD3C6BF 66E0902D E234D08F
 E6F6C001 BAC80854 D4668160 9299FC73 C14A33F3 51A17BF5 8C0BEA07 3AC03D84
 889F2661 02030100 01A37430 72300F06 03551D13 0101FF04 05300301 01FF301F
 0603551D 11041830 16821456 61646572 2D343531 302E6369 73636F2E 636F6D30
 1F060355 1D230418 30168014 BB013B0D 00391D79 B628F2B3 74FC62B4 077AD908
 301D0603 551D0E04 160414BB 013B0D00 391D79B6 28F2B374 FC62B407 7AD90830
 0D06092A 864886F7 0D010104 05000381 81002963 26762EFA C52BA4B3 6E641A9D
 742CE404 E45FECB1 B5BD2E74 6F682476 A7C3DAA5 94393AE3 AA103B6E 5974F81B
 09DF16AE 7F9AE67C 5CB3D5B1 B945A5F3 36A8CC8C 8F142364 F849344D 5AE36410
 51182EB9 24A9330B 3583E1A3 79151470 D304C157 3417E240 52BE2A91 FC7BBEDE
 562BEDAD E6C46D9A F7FF3148 4CE9CEE1 5B17
quit
!
!
!
power redundancy-mode redundant
no file verify auto
spanning-tree mode pvst
spanning-tree extend system-id
!
vlan internal allocation policy ascending
!
vlan 2
!
interface GigabitEthernet1/1
 switchport access vlan 2
!
interface GigabitEthernet1/2
!
interface GigabitEthernet1/3
!
interface GigabitEthernet1/4
!
interface GigabitEthernet1/5
!
interface GigabitEthernet1/6
!
interface GigabitEthernet1/7
!
interface GigabitEthernet1/8
!
interface GigabitEthernet1/9
!
interface GigabitEthernet1/10
!
interface GigabitEthernet1/11
!

```



```

interface GigabitEthernet1/12
!
interface GigabitEthernet1/13
!
interface GigabitEthernet1/14
!
interface GigabitEthernet1/15
!
interface GigabitEthernet1/16
!
interface GigabitEthernet1/17
!
interface GigabitEthernet1/18
!
interface GigabitEthernet1/19
!
interface GigabitEthernet1/20
!
interface Vlan1
  no ip address
!
interface Vlan2
  ip address 123.123.123.1 255.255.255.0
!
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 123.123.123.2
ip http server
ip http secure-server
ip http max-connections 16
ip http timeout-policy idle 180 life 180 requests 25
!
line con 0
  password cna
  login
  stopbits 1
line vty 0 4
  password cna
  login
line vty 5 15
  password cna
  login
!
!
end

Switch#

```

クラスタ モードのネットワーク スイッチ上での Network Assistant の設定

クラスタ モードのネットワーク スイッチ上で Network Assistant を設定するには、スイッチで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Switch(config)# enable password name	コンフィギュレーション モードのパスワード保護をイネーブルにします。
ステップ 3	Switch(config)# vtp domain name	VLAN および名前を管理するために、VTP ドメインを作成します。
ステップ 4	Switch(config)# cluster run	クラスタ コマンド上でクラスタを開始します。

	コマンド	目的
ステップ 5	Switch(config)# cluster enable cluster_name	スイッチをクラスタ コマンドに設定します。
ステップ 6	Switch(config)# vlan vlan_id	VLAN を作成します。
ステップ 7	Switch(config-vlan)# interface {vlan vlan_ID {fastethernet gigabitethernet} slot/interface Port-channel number}	ご使用の CNA 対応 PC に接続するインターフェイスを選択します。
ステップ 8	Switch(config-if)# switchport access vlan vlan_id	指定の VLAN 内の物理ポートをイネーブルにします。
ステップ 9	Switch(config-if)# interface {vlan vlan_ID slot/interface Port-channel number}	設定用の VLAN インスタンスを選択します。
ステップ 10	Switch(config-if)# ip address ip_address	SVI に IP アドレスを割り当てます。
ステップ 11	Switch(config-if)# no shut	インターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 12	Switch(config-if)# ip http server	Network Assistant がスイッチと対話できるよう HTTP サーバを開始します。
ステップ 13	Switch(config)# ip http secure-server	(任意) スイッチが Network Assistant からの HTTPS 接続を受け入れるようにします。
ステップ 14	Switch(config)# ip route a.b.c	デフォルト ルータとのルートを確認します。これは通常、ローカル インターネット プロバイダーにより供給されます。 (注) この回線だけが、スタンドアロン スイッチとネットワーク スイッチの設定の相違点です。
ステップ 15	Switch(config)# line con 0	コンソール ポートを選択して設定を実行します。
ステップ 16	Switch(config-line)# exec-timeout x y	端末にキーボード入力または出力が表示されない場合、自動セッション ログアウトを設定します。
ステップ 17	Switch(config-line)# password password	コンソール ポートのパスワードを指定します。
ステップ 18	Switch(config-line)# login	コンソール ポートへのログインを許可します。
ステップ 19	Switch(config-line)# line vty x y	CNA がスイッチにアクセスするための追加の VTY 回線を作成します。
ステップ 20	Switch(config-line)# password password	スイッチのパスワードを指定します。
ステップ 21	Switch(config-line)# login	スイッチへのログインを許可します。
ステップ 22	Switch(config-line)# line vty x y	CNA がスイッチにアクセスするための追加の VTY 回線を作成します。
ステップ 23	Switch(config-line)# password password	スイッチのパスワードを指定します。
ステップ 24	Switch(config-line)# login	スイッチへのログインを許可します。
ステップ 25	Switch(config-line)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 26	Switch# show running-config include http	HTTP サーバがイネーブルであることを確認します。

次に、クラスタ モードのネットワーク スイッチ上で Network Assistant を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# vtp domain cnadoc
Switch(config)# cluster run
Switch(config)# cluster enable cnadoc
Switch(config)# vlan 10
Switch(config-vlan)# interface GigabitEthernet 2/1
Switch(config-if)# switchport access vlan 10
Switch(config-if)# interface vlan10
Switch(config-if)# ip address aa.bb.cc.dd
Switch(config-if)# no shut
```

```
Switch(config-if)# ip http server
Switch(config-if)# ip http secure-server
Switch(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 123.123.123.2
Switch(config)# line con 0
Switch(config-line)# exec-timeout 0 0
Switch(config-line)# password keepout
Switch(config-line)# login
Switch(config-line)# line vty 5 15
Switch(config-line)# password keepout
Switch(config-line)# login
Switch(config-line)# line vty 5 15
Switch(config-line)# end
Switch# show running-config
Building configuration...
```

```
Current configuration : 1469 bytes
!
version 12.2
no service pad
service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
service compress-config
!
hostname Switch
!
boot-start-marker
boot-end-marker
!
enable password cna
!
no aaa new-model
ip subnet-zero
!
vtp domain cnadoc
vtp mode transparent
cluster run
cluster enable cnadoccluster 0
!
!
!
!
power redundancy-mode redundant
no file verify auto
spanning-tree mode pvst
spanning-tree extend system-id
!
vlan internal allocation policy ascending
!
vlan 2
!
interface GigabitEthernet1/1
    switchport access vlan 2
!
interface GigabitEthernet1/2
!
interface GigabitEthernet1/3
!
interface GigabitEthernet1/4
!
interface GigabitEthernet1/5
!
interface GigabitEthernet1/6
```

```
!  
interface GigabitEthernet1/7  
!  
interface GigabitEthernet1/8  
!  
interface GigabitEthernet1/9  
!  
interface GigabitEthernet1/10  
!  
interface GigabitEthernet1/11  
!  
interface GigabitEthernet1/12  
!  
interface GigabitEthernet1/13  
!  
interface GigabitEthernet1/14  
!  
interface GigabitEthernet1/15  
!  
interface GigabitEthernet1/16  
!  
interface GigabitEthernet1/17  
!  
interface GigabitEthernet1/18  
!  
interface GigabitEthernet1/19  
!  
interface GigabitEthernet1/20  
!  
interface Vlan1  
no ip address  
!  
interface Vlan2  
ip address 123.123.123.1 255.255.255.0  
!  
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 123.123.123.2  
ip http server  
no ip http secure-server  
!  
!  
!  
line con 0  
  
Switch#
```